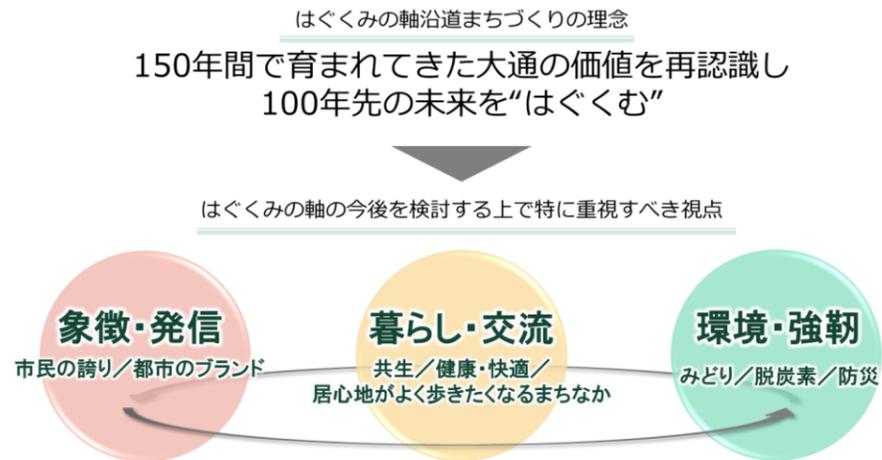
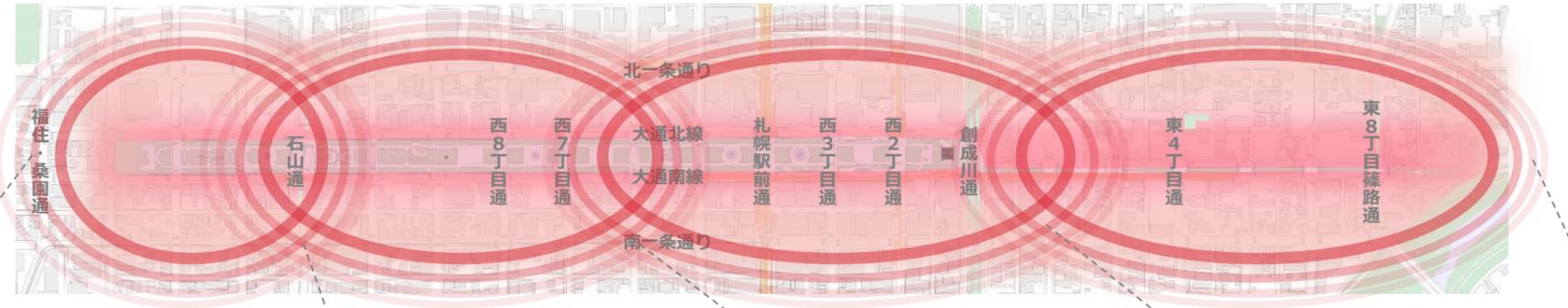


■まちづくりの理念等



■ゾーンごとのまちづくりの強化の考え方・将来像



西Cゾーン (はぐくみの軸西端～石山通)	西Bゾーン (石山通～西6丁目)	西Aゾーン (にぎわいの軸・つながりの軸と 大通・創世交流拠点を含むエリア)	東ゾーン (大通・創世交流拠点より東側)
<p>・ ゾーンの特徴</p> <p>周辺を含めて文化芸術施設・歴史資源や集客交流施設が立地しているとともに、地下鉄駅・路面電車・バスの停留所が近接しており、交通利便性が高いゾーン</p>	<p>多くの子どもが利用する大通公園の「遊び・イベントゾーン」を含み、沿道にはオフィス・集合住宅・ホテル・教育施設等が立地し、多様な土地利用となっているゾーン</p>	<p>第2次都心まちづくり計画で「大通・創世交流拠点」として位置付けているほか、「都心強化先導エリア」「都心商業エリア」の一部を含んでおり、都心の中でもビジネス・行政・商業といった都市機能の中心的役割を担っているゾーン</p>	<p>共同住宅の建設が進んでいる一方で、公園や公共的空間が不足しており、また、青空駐車場といった低未利用地が多いゾーン</p>
<p>・ 強化の考え方（案）</p> <p>都心西側の回遊拠点を形成し <u>美しいみどりや歴史・文化芸術を活かした多様な交流をはぐくむ</u></p>	<p>居住とビジネスが共存し まちに開かれた沿道空間と大通公園に多世代が集う <u>都市の新しいライフスタイル・ワークスタイルをはぐくむ</u></p>	<p>育んできた価値と新しい価値が融合した <u>世界に誇れる価値を創造する象徴的な拠点をはぐくむ</u></p>	<p>創成東地区の資源と創成川以西の活力を活かした <u>創造性豊かな職・住環境と人にやさしく歩きたくなるまちなかをはぐくむ</u></p>

■令和3年度検討会での主な意見

<p>第1回検討会 (2021.10.25)</p>	<p>・ここに住みたいと思えるまちにして欲しい。もっと大胆に、20～30年後に札幌の顔が変わる、というものを狙いたい</p> <p>・交通の考え方をもっと大胆に考えたい。歩行者にやさしい空間を作りたい。地上地下の連携や回遊性を高める視点も必要</p> <p>・冬の資源をどのように今後の街づくりにつなげるのか。どのように快適な空間を作っていくかが課題</p> <p>・大通を挟んで開発動向に差がある南北が連携する仕組みが必要</p> <p>・起業支援など市の具体的な取組にあわせ、魅力的な働く環境を作れるのでは など</p>
<p>第2回検討会 (2021.12.17)</p>	<p>・ゾーン別に考えるところと全体で考えるところの整理が必要、ゾーン毎の広がりもそれぞれ違って良いのでは</p> <p>・個人の活動を重視した空間の検討が必要</p> <p>・最終的な将来像をイメージした上で、実証実験の実施など、そこに向かうステップを検討する視点が必要</p> <p>・官民連携の方策や建物規模による活用の仕方を検討すべき</p> <p>・景観や脱炭素に関する記載も再整理すべき</p> <p>・その他ゾーン毎の具体的な計画の方向性について など</p>
<p>第3回検討会 (2022.3.8)</p>	<p>・対象エリアの図を、東西南北の少し広めの範囲も含めて表示し、周辺のまとまった緑などとの関係も意識してほしい</p> <p>・なぜはぐくみの軸の強化が必要なのかという点を、はぐくみの軸の重要性と共に明確にすべき</p> <p>・大通の歴史性や固有の価値を活かしていくということの重要性を強調すべき</p> <p>・計画の時間軸を明確にしてほしい。遠い将来には高い目標を設定し、その上で20年間での計画を考えてはどうか</p> <p>・“沿道と公園の一体感”や“道路空間の柔軟な対応”などは具体的な内容がこの段階では見えていない</p> <p>・方針策定の際には、内容が正しく伝わるような構成とし、分かりやすい表現を用いること など</p>

➡ これらの意見を踏まえながら、引き続き検討会を開催して検討を進め、令和4年度中に方針を策定いたします。

■はぐくみの軸全体の将来像

- 1 都心の象徴性が継承され
札幌のまちづくりを支える軸として
新しい都市文化・魅力・活力を
生み出し続けている
- 2 大通と沿道が一体となった
札幌を象徴する
都市空間と景観が形成され
札幌のブランド力向上をけん引し
世界から投資と人材を呼び込んでいる
- 3 大通公園や沿道の公共的空間などが
全ての人々にとって居心地の良い場として愛され
そこでの憩いと交流が
北海道・札幌の魅力なライフスタイルとして
国内外に発信されている
- 4 交通結節性の高さを活かし
時代に適応した交通手段と歩行者が
共存できる空間が形成され
移動の利便性と歩きたくなる楽しさが
両立している
- 5 豊かで高質なみどりが
途切れることなく展開されるとともに
都心の脱炭素化に向けた取組や
災害対策が進められ
うるおいがあり強靱な軸が形成されている
- 6 実験的な取組や市民・企業・行政などの
多様な主体の連携を通じて
時代の流れに柔軟に対応した
まちづくりが進められている